

# 日本大震災支援報告

## ～大阪狭山市から想いを乗せて～

# ボランティアだより

編集・発行  
大阪狭山市ボランティア・センター  
☎367-6601

### ★市民の想いを乗せた 災害ボランティアバス

大阪狭山市社会福祉協議会では、七月十五日(金)～十七日(日)の三日間と、八月二十六日(金)～二十八日(日)の三日間の計二回、宮城県の南三陸町と岩沼市に災害ボランティアバスを運行しました。  
どちらも大阪狭山市を金曜の夜に出発し、土曜一日の現地活動を行い、日曜の朝に帰ってくるという0泊三日のハードな日程でした。  
それでも参加者からは「0泊三日だからこそ、都合もつきやすく参加することができた」「現地一日の活動だけでなく、意味のあることだから継続して続けてほしい」など、熱いメッセージをいただきました。

### ★第一回災害ボランティアバス 運行報告

七月十五日(金)～十七日(日)の日程で行った第一回は、ボランティア二十六人、社協職員五人、市職員五人の総勢三十六人のメンバーで、宮



福祉の里での活動風景

城隍南三陸町でボランティア活動に取り組みました。活動場所に到着したバスからは、辺り一面津波で何もかも流された町並みと、一ヶ所に集められたがれきの山、本当に言葉にすることのできない感覚と胸の痛みを覚えました。  
今回の震災、同じ日本東北で起きた出来事、連日のテレビ報道に憤りを感じた日々、その中で感じるどこか他人事のような感覚。すべての思いが、実際に現地に足を運んだことで、自分の目や鼻や肌で感じるこ

とで、大きな一歩を踏み出したように感じます。  
活動内容は、南三陸町社会福祉協議会のあった福祉の里の片付けと、志津川高校避難所の救援物資の仕分けでした。



救援物資の積みこみ中

福祉の里の片付けでは、高台に建物があるにも関わらず津波の被害にあつており、この高さまで津波が来たと思うと、本当に今回の震災の規模の大きさと恐さを感じました。  
泥やがれき、はがれた壁など、初めは「今日一日でどれだけのことかできるだろう」と不安を感じましたが、いざ活動を始めると、それぞれが自分たちでできることを考え行動し、どんどんきれいに片付けていくのを感じ、やりがいと活動の喜びを感じました。たった一日でしたが、それぞれが協力し、無心に活動したことができた。

志津川高校避難所の活動では、救援物資の仕分けや避難所の風呂場の掃除などを行いました。実際に現地の人たちが生活している場所でのボランティア活動で感じたことは、ボランティアと現地の人との交流の難しさです。

ボランティアとして活動に行く人たちが「現地の人たちと交流したい」と思う気持ちを持つのは当然だと思えます。しかし、ボランティアの方の悪気のない一言や、興味本位で尋ねた一言が、相手を傷つけることがあります。そのような話を聞くと、改めてボランティアをもう一度しっかりと心構えを、もう一度しっかりと見つけ直す必要があると感じました。

今回の活動を通して、ボランティアの皆さんからは、「短い時間ではありましたが、一杯活動し少しでも役に立てたと思う」「今後今回のような企画を継続して行ってほしい」などさまざまな意見をいただきました。  
「微力ながら無力ではない」とひとりひとりの持つ力は小さいながらも合わせれば、みんなな力になることを実感できました。今回のボランティアバスの運行も、本当に小さな活動かもしれませんが、これをきっかけに支援の輪がもっと大きなものに広がっていくことを思うと、本当に意味のある価値ある三日間だったと思えます。

### ★第二回災害ボランティアバス 運行報告

第二回目は、八月二十六日(金)～二十八日(日)の日程で行いました。今回は前回は上回る応募があり、皆さんの震災に対する熱い想いを感じました。ボランティア二十九人、社協職員六人、市職員四人の総勢三十九人のメンバーで、宮城県岩沼市でボランティア活動に取り組みました。

活動内容は、南浜中央病院のベッドの搬入作業、津波の被害にあった農場の泥だしでした。

南浜中央病院の活動は、百四十五台のベッドを二階に運ぶ作業を行いました。最初は、皆さん「今日一日の作業でできるのか」と不安に思っていたとのことでした。しかし、いざ作業を始めると、みんなでかけ声を掛け合い、気持ちを一つにして取り組み、一日の作業で終わることができました。参加者からは「一人の持つ力はすごい」との感想もあり、いろいろ感じるところがあったようです。



ベッドの搬入作業

二回のボランティア活動を通して、人の持つ力の大きさ、人の温かみをとて感じることができ、本当に多くの人の協力があつて運行することができました。  
参加してくださった方が、協力いただいた方、ありがとうございました。多くの人のつながりの輪を感じながら、今後も大阪狭山市社会福祉協議会では、各機関と連携し、継続した被災地支援を行っていきたいと思います。



農場の後片付け

農場の活動は、「もう一度野菜をつくりたい」との農場の方の声に呼ばれるため、津波の被害で使えなくなった土や泥の片付け、農場の雑草抜きを、現地のボランティアとも協力し、行いました。  
広大な土地でとても一日では終わることのできない作業で、今後も継続した支援が必要となるものでした。それでも農場の方からは「最初に比べればとてもよくなった。まだまだ時間はかかるが、復興に向かって今後も活動していく」と前向きな言葉があり、私たちが胸が熱くなる想いで活動に励みました。

10月1日から  
赤い羽根共同募金運動が  
始まります。  
ご協力をお願いします。

猛暑日が続いた今年の夏。七月二十九日(金)「夏のボランティアジュニアスクール」を開講しました。

今年は、姉妹都市であるオントリオ市の学生の参加もあり、ボランティア体験と国際交流を同時にできたスクールとなりました。

短くて楽しいおはなしを覚えて帰ろう

わずか九十分の間に短いおはなしを三本読みこなし、発表会まで行いました。

子どもたちに一番人気があったのは「たまごのおでかけ」中川李枝子作で、くまが森まで出かけて戻ってくるという単純なおはなしです。

おはなしを完璧に覚えた子が居ましたが、最初は聞いていておはなしの世界が伝わってきませんでした。

つま楊枝入れと紙箱を作ったおまけをプレゼント

本年もクラフトを作ったおまけにボランティアの人から説明を受け、プリントを見ながら、折り紙でつま楊枝入れと紙箱を作りました。つま楊枝入れ

## 夏のボランティアジュニアスクール

しかし、アドバイスを受けて練習していく内に良くなり、最後には目の前に森の中をいきいきと歩き回るくまさんの世界が伝わってきました。

今回覚えたおはなしを、家族や友達に披露してもらいたいと思います。



## 車いす利用の基礎講座

八月二十二日(月)公民館で十七人の受講生が車いすの正しい使い方を学びました。三回目の今回は、大阪介護福祉士会から三人、講師にきていただき「車いす利用者の基本援助技術」として車いす選びのポイントを学びました。

①どんな時、どんな場所で使うのかで選ぶ。

②使用者の介護者の状況で選ぶ(障がいや程度や、移動能力、介護度など)

③移動方法で選ぶ(身体能力に合わせて、自走式か介助式にするか考慮)

④足がしっかりと地面に着くものを選ぶ

⑤車いすへの移乗方法で選ぶ



やさしく押してね

⑥使用者が直接座って、身体に合ったものを選ぶ

以上のポイントに注意し、車いすを選ぶことで、使用者の自立を高めたり、介護者の負担を軽減できることを学びました。

は各自がイラストを書いたり、絵シールを貼り付けたりして「お元気に」「長生きしてね」などのメッセージや自分の名前を書いたりしました。途中、オントリオ市の学生の見学もあり楽しくクラフト作りをしました。一人で五、六個作り、二

つま楊枝入れと紙箱を作ったおまけをプレゼント

本年もクラフトを作ったおまけにボランティアの人から説明を受け、プリントを見ながら、折り紙でつま楊枝入れと紙箱を作りました。つま楊枝入れ

次に、車いすの各部の役割と取り扱いの説明を受けました。その後、使用時の注意点と介助時に気をつける点などアドバイスを受け、二人一組になつて「押す」「乗る」を交代に体験学習を行いました。

公民館入り口のスロープを後ろ向きで移動させる方法、ガタガタの道を使用側が不安にならないようにする押し方、段差を使って後部足元のバーの使い方、車いすを使った公民館のエレベーターの使用方法を教わりました。

講座の最後には、実際に車いすを使われている当事者のお話を聞くこともでき、とても充実した基礎講座でした。



うまく折れるかな?

人が調理ボランティアと一緒にしるの会の定例会と一緒に参加し、終了後にエプロン姿で調理をしました。

メニューは冷やし中華、餃子の皮のアップルパイもどきと餃子ビザンデザートに杏仁豆腐の黄桃のせを作りました。みんなで担当を決めて作りましたのでスムーズにできました。

一緒に食事をしながら、つくしの会の歴史やボランティアをやったよかったことなどみんなで話し合いました。子どもたちは「むずかしいと思つてい

震災から半年が過ぎました。被災者の方々は、少しは元気になられたでしょうか。たな折るばかりです。

ある日の朝、新聞を見ていて、ふと目にたった記事があり、少しも参考になれなば、ここに紹介したいと思つています。

それは…

迫りくるM9

「釜石の奇跡」に習う教育。

釜石市内では、今回の大震災の際、市内の小中学生約三千人が地震直後に避難を開始。避難率がほぼ100%に上り、釜石の奇跡と呼ばれ、防災教育の成果とされた。震災後、釜石市教育委員会の調査で沿岸部の九小・中学校の全児童生徒を対象に調査したところ、三分の一は、自宅や外出先にいたが、いずれも地震の揺れが落ち着いたとす、避難

たけど早くできたので家でも作つてみたい」と感想を話していました。

手話でピンコ!! みんなで楽しく表現してみよう

今年「伝えたい」気持ちテーマには「三匹の子ぶた」の劇をしました。

初めに物語に出てくる内容をどんな風に表現したら良いか、ピンコゲームで楽しみながら表現します。最初は尻込みし、照れていた子どもたちも、自分なりに考え工夫して表現しました。

配役を決め、先ほど工夫を凝らした表現を駆使して、聴覚障がい者の前で演じました。「良くと分かったよ」と言ってもらってひと安心。

「伝えたい」という気持ちがあれば、相手も必ず分かるように努力してくれまます。この気持ち

を開始していた。

子どもが避難主導

「地震が起きたら、何も持たんとすく逃げて。もう年やから自分の家で死にたいわ。」避難を始める祖父や親をして避難させた。子どもたちが集団で逃げるのを見て、住民も避難を始めた。中学生が「もっと高台に行くと。」と声を出し、全員で避難した。子どもたちの行動が周囲の人をも巻き込んで、避難すること

「釜石の奇跡」に習う教育。

釜石市内では、今回の大震災の際、市内の小中学生約三千人が地震直後に避難を開始。避難率がほぼ100%に上り、釜石の奇跡と呼ばれ、防災教育の成果とされた。震災後、釜石市教育委員会の調査で沿岸部の九小・中学校の全児童生徒を対象に調査したところ、三分の一は、自宅や外出先にいたが、いずれも地震の揺れが落ち着いたとす、避難

を忘れずに大切にしてほしいと思います。

おりがみを折って遊ぼう

今回は、動きのあるものを作りました。えさを食べる小鳥とおすもうさんは台紙の上でゆらゆら動き、コマでぐるぐるとはうまうま回転する、思わず拍手がでました。子どもたちはどれも楽しく覚え、弟や妹にと折っていました。

オントリオ市の学生の訪問もあり、コマや小鳥をプレゼントして喜んでもらいました。

これからも身近な折り紙を通して、コミュニケーションの輪を広げてほしいと思います。子どもたちの「楽しかった」という言葉に、私たちが元気をもらいました。

ていたにもかかわらず、自主的に避難に成功した市立釜石小学校の加藤校長は、「学校がここまで防災を教えられるか。具体的にはうすれば子どもを守れるか。それは「点」でなく「面」でもない。「立体的」な教育をしなければならぬ。「防災マップ」津波を想定した避難訓練として、「立体的な防災教育」それは、親子で避難路の確認。地震速報を校区内へ流す。すべに安全な避難場所へ移動する。これが子どもたち主導で地域全体をも巻き込んだ「奇跡」につながったと思う。

私たちの街・大阪狭山市も「奇跡を起こす」ことができません。どうか、それにはまず、地域のことをよく知ることが大切だと思ひます。

「釜石の奇跡」に習う教育。

釜石市内では、今回の大震災の際、市内の小中学生約三千人が地震直後に避難を開始。避難率がほぼ100%に上り、釜石の奇跡と呼ばれ、防災教育の成果とされた。震災後、釜石市教育委員会の調査で沿岸部の九小・中学校の全児童生徒を対象に調査したところ、三分の一は、自宅や外出先にいたが、いずれも地震の揺れが落ち着いたとす、避難



講座を終えた子どもたちは、グループ活動と野外料理、レクリエーションゲームの実習を中心としたリーダー養成キャンプに参加しました。

グループで力を合わせてのサイクルアトラクション体験のあとは、カレー作り。それぞれ家で練習してきた成果を発揮して切る人、皮をむく人と自分の力に合わせて料理しました。

ご飯もカレーもおいしくできあがり、あつという間にお鍋が空になりました。

片付けた力を合わせてテキパキできたので、レクリエーションもたっぷり遊べて楽しいキャンプになりました。

おいしいカレーができるかな?

猛暑の夏も終わり、吹く風が爽やかに感じる季節になりました。今年3・11の東日本大震災や福島原発の問題、台風の影響で記録的な大雨で日本列島あちこちで被害がでました。放射能の影響で牛肉や野菜等、風評被害も大きく、節電と円高も相まって景気も低迷しています。政府も頼りなく自分たちがいつかもしなければという気持ちになります。

気候も少しずつおかしな雨が降ればゲリラ豪雨で被害続出、私たちも防災意識を高めて、自分の身は自分で守る為に日頃から準備を怠ることなく、近所との人間関係の絆を深めることも大切です。

(桶田)

「釜石の奇跡」に習う教育。

釜石市内では、今回の大震災の際、市内の小中学生約三千人が地震直後に避難を開始。避難率がほぼ100%に上り、釜石の奇跡と呼ばれ、防災教育の成果とされた。震災後、釜石市教育委員会の調査で沿岸部の九小・中学校の全児童生徒を対象に調査したところ、三分の一は、自宅や外出先にいたが、いずれも地震の揺れが落ち着いたとす、避難



おいしいカレーができるかな?

## 編集後記

猛暑の夏も終わり、吹く風が爽やかに感じる季節になりました。今年3・11の東日本大震災や福島原発の問題、台風の影響で記録的な大雨で日本列島あちこちで被害がでました。放射能の影響で牛肉や野菜等、風評被害も大きく、節電と円高も相まって景気も低迷しています。政府も頼りなく自分たちがいつかもしなければという気持ちになります。

気候も少しずつおかしな雨が降ればゲリラ豪雨で被害続出、私たちも防災意識を高めて、自分の身は自分で守る為に日頃から準備を怠ることなく、近所との人間関係の絆を深めることも大切です。

(桶田)